

修士論文（要旨）  
2010年1月

## 英語母語話者の不定冠詞の捉え方

指導 小池一夫教授

国際学研究科  
言語教育専攻  
208J4010  
津波佳典

# 目次

## 序論

1. 冠詞の性質と構造.....	3
1.1. 冠詞の種類と機能.....	3
1.2. 不定冠詞の発達と数詞 one との共通点、相違点.....	20
1.3. 不定冠詞と他品詞の関連性.....	31
2. 冠詞と名詞の関わり.....	36
2.1. 名詞の可算性、不可算性の分類.....	36
2.2. 名詞の種類と冠詞.....	44
2.3. 名詞句と主要語.....	52
3. 英語母語話者と日本人英語学習者の不定冠詞の捉え方.....	58
3.1. 英語母語話者と日本人英語学習者の英語冠詞の習得.....	58
3.2. バイリンガル書を用いた日英語の冠詞の分析.....	61
3.3. 英語母語話者の不定冠詞の捉え方.....	64

## 結論

後注.....	77
参考文献.....	79
Appendix.....	84
謝辞.....	90

## 要旨

冠詞は日本人にとって理解が難しいものの一つである。なぜならば日本語には冠詞という概念や語類が存在しないからである。そして、冠詞の中でも特に日本人にとって難しいのが不定冠詞である。青木(2000)によれば、日本人高校生と大学生に行った冠詞の調査においても、中級学習者にとっては定冠詞—不定冠詞—ゼロ冠詞の順に難易度が増し、上級学習者では、定冠詞—ゼロ冠詞—不定冠詞の順に難易度が増すという結果が出たという。この結果より、英語を学習すればするほど、不定冠詞が難しいと感じることがわかる。筆者自身も英語を習い始めて、あるとき不定冠詞の誤用が多いことに気がついた。なぜ不定冠詞は難しいのか。その理由として、不定冠詞が数的概念を持っていること、不定という概念を持っていることなどがあり、その他にも総称表現や、新情報としての役割も担っていることが考えられる。このことは一般に日本人英語学習者が不定冠詞を捉えようとする際、その性質に一貫性がないと感じ、混乱する要因となる。では不定冠詞をどのように捉えれば混乱せず、理解できるのであろうか。本論文では、冠詞の中でも不定冠詞に注目し、その機能と性質の観点から、英語母語話者の不定冠詞の捉え方について考察する。それをもとに我々日本人英語学習者が、どのように不定冠詞を捉えれば理解できるのかという点について、考えてみる。そして一連の考察を通して、不定冠詞の立場から英語の言語構造の特徴について考えてみたい。

冠詞には不定冠詞、定冠詞、ゼロ冠詞があり、それぞれが各々に特異性をもち、またそれぞれが密接に関係している。そして、冠詞は、名詞句の定ないし不定を表す限定詞である。1.では3つに分類される冠詞について、不定冠詞を中心にしてその関連性と性質について考察する。その中で、不定冠詞と数詞 **one** の関係について詳しく分析し、不定冠詞の概念を再考する。歴史的にみれば不定冠詞 **a/an** は数詞 **one** から派生した語であり不定冠詞は、1 という意味を含んでいる。では不定という概念はどこから生まれたのか。それは、数詞 **one** 自体に、不定という概念が含まれているところからである。Huddleston & Pullum (2005)が限定詞の定および不定について分けた表に、数詞 **one** が不定に分類されていることから立証できる。よって不定冠詞と数詞の関係について考察し、不定冠詞の役割についてまとめる。その他にも冠詞と情報について新情報、旧情報の機能について検討する。

2.では、冠詞が限定詞の1つであることにも注目し、名詞句の主要語が、名詞であるという捉え方について問題点を挙げ、主要語についても考察していく。つまり、名詞句の主要語はその句でもっとも情報を持った内容語、つまり名詞が主要語となるが、その名詞の捉え方について概念を決める限定詞が、名詞を先導し引っ張っていることから、限定詞が主要語であるとも考えることができるからである。この考え方は、ピーターセン (2005)で言及されていることとも通ずるところがある。そしてこのような捉え方の違いによって、日本人英語学習者が冠詞の概念について難しいと感じる要因を生み出しているのではないかと考える。よって名詞句における限定詞の働きについても考察する。

さらに、3.では英語母語話者の不定冠詞の捉え方について考察する。ここでは主にこれまでの分析と、辞書の定義に基づいて、チャートを作成し、英語母語話者の不定冠詞の捉え方について考える。そしてそれらの分析から、日本人英語学習者がどのように不定冠詞を捉えれば、より一層理解しやすいかということについて考察する。

本論文の結論として、不定冠詞、定冠詞、ゼロ冠詞の概念について定義した。不定冠詞

の定義は、「聞き手にとっては対象物がどれのことか分からないが、話し手は対象物について[±Spec]で、それが1つ、または1まとまり、あるいは形状がはっきりしているという認識を持つものを示す」であり、定冠詞は「theは(談話状況の)成員すべてにその指示物が『見えて(visible)』いなくてはならない(大西 2005, p.42)」と定義した。さらにゼロ冠詞の定義は、「後続する名詞が不定性を帯び、数や形状に限定性がない、あるいは限定性が必要ないことを示す」となった。また、不定冠詞については、不定と「1」という数的概念が混在する理由が、数詞 one から不定冠詞に発達していったことを分析することで明らかとなった。不定冠詞は意味の拡張によって、不定と数的概念を持ちさらには総称表現も表すようになったのである。

さらに名詞句の主要語については、冠詞が後続する名詞の意味を決定付けることが明らかになり、冠詞が主要語となり得ることを示した。

英語母語話者の不定冠詞の捉え方について辞書を用いて考察したものについては、不定冠詞が不定と「1」という数的概念を持つことを踏まえて、その他の用法はそれらから意味が拡張したと考えることが出来る。よって、英語母語話者は不定冠詞を捉える際、「不定」という概念と、「1」という数的概念を常に念頭におき、それを軸として捉えていると結論付けられる。

## 参考文献

- Abney, Stephen. 1987. *The English Noun Phrase in its Sentential Aspect*. Unpublished Ph. D. dissertation MIT.
- Alexander, L. G. 1988. *Longman English Grammar*. London & New York: Longman.
- 青木信行. 2000. 「英語学習者の冠詞判断に関する一考察—日本人大学生を対象として—」『広島国際研究』第6号. 広島市立大学.
- Declerck, Renaat. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha.
- Huddleston, Rodney. 1985. *Introduction to the Grammar of English*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum. 2005. *A Student's Introduction to English Grammar*. New York: Cambridge University Press.
- 池内正幸. 1985. 『名詞句の限定表現』(新英文法選書 第6巻) 東京: 大修館書店.
- 井上和子, 山田洋, 河野武, 成田一. 1985. 『名詞』(現代の英文法 第6巻) 東京: 研究社.
- 岩崎健弥. 1964. 『新しい冠詞の見方と使い方』東京: 研究社出版.
- 柏野健次. 2005. 「英語冠詞の語法」『大阪樟蔭女子大学論集』, 第42号.
- 小池一夫. 2006a. 「英語: 今に残る昔の姿」『英語世界へのアプローチ』桜美林大学英語英米文学科(編). 東京: 三修社, pp.12-24.
- 小池一夫. 2006b. 『英語語彙の意味と構造』東京: 日本英語言語学研究推進会出版部.
- 小池一夫. 2009. 「不定冠詞と名詞の数的処理の関わり」『レオルニアン』第13号. 日本英語教育英学会研究部会..
- 久野暲, 高見健一. 2005. 『謎解きの英文法—冠詞と名詞—』東京: くろしお出版.
- 熊山晶久. 1993. 『英語冠詞用法辞典』東京: 大修館書店.
- Leech, Geoffrey. 2006. *A Glossary of English Grammar*. Edinburgh: Edinburgh University Press.
- 大喜多喜夫. 2000. 『英語教師のための応用言語学—ことばはどのように学習されるか—』京都: 昭和堂.
- ピーターセン, マーク. 2005. 『日本人の英語』(岩波新書) 東京: 岩波書店.
- 斎藤秀三郎. 1963. 『冠詞用法詳解』東京: 吾妻書房.
- Steinberg, Danny D. (著), 竹中龍範 (訳). 1995. 『心理言語学への招待』東京: 大修館書店.
- 安井稔. 1987. 『現代英文法事典』東京: 大修館書店.
- The American Heritage Dictionary of the English Language*. Third edition. New York: Mifflin company, 1992.
- Collins Dictionary of English Language*. Second edition. London: Collins, 1989.
- English Language Dictionary*. London: William Collins Sons, 1987.
- Longman Dictionary of Contemporary English* Third edition. Harlow: Longman group, 1995.